

移転開学時に思いを馳せて

元学長 杉山道雄

『岐女短』70周年記念おめでとうございます。戦後いち早く創立し、歴史を重ねる毎に進化し、発展した名門校です。私が在職した時期（1999年～2005年）は移転学科再編期で当時の思い出を2点ほど申し上げます。

新聞に浅野市長が4年制化を表明されたことから大学の教員・学生に教育熱・学習熱が漲っており、それが『ピーチスマイル』という学生による学生のための機関紙に表れていました。新入生歓迎号の企画に「学生生活の中で何を得たかと問われれば勉学の他に“良き先輩やよき友に会う”ことである。そのために友と語り、行動するには自治会やクラブ活動が最適だし、機関誌はその手助けとなるだろう」など書いたことを思い出します。岐女短の機関誌としては『岐女短新聞』が創刊号より80余号まで発刊されていました。それ以前は『女専新聞』『岐専新聞』『岐阜短大新聞』などの自治会機関誌が刊行されており、それらの中には新入生の紹介、クラブ・サークル活動、学生の主張が満載でした。岐阜市公会堂での“シェイクスピアの英語劇”などは学生による自主的・創造的な企画で市民に訴える演劇活動でした。これらの歴史に続く『ピーチスマイル』は教員と学生を繋ぐ素晴らしさがありました。その例として、学生が入学式に先立って開催した新入生歓迎会での『ピーチスマイル／はじめの一步…これで岐女短がわかる』の配付が挙げられます。岐女短はどういうところか、どんな先輩がいるかなど、この先の学生生活に不安いっぱいの新入生に一日も早く大学に慣れることを願っての先輩たちのおもてなし企画でした。先生の紹介が似顔絵入りであったことが印象的でした。現在はケータイやスマホなど個別通信機器が発達し、学生生活を一変させています。世界の情報も時々刻々と入ってきます。けれども短い学生時代にはケータイやスマホの個別的なコミュニケーションよりも先輩や教員との対面的・一体的な活動の中で真の自分らしさを発見することが大切だと思います。『ピーチスマイル／はじめの一步…これで岐女短がわかる』は先輩から新入生への心のこもった入学案内第1号でした。その後、学生の手作りの発刊物はピーチクラブの『生もも』や大学祭の『桃林』へと引き継がれていきますが、振り返って懐かしい出版物でした。

もう1点、自治会主催の新入生歓迎行事のことを記します。毎年映画鑑賞が恒例となっていた同行事ですが、これでは学生間の相互親睦に限界があるという武藤先生の提言もあって、学内ソフトボール大会とバレーボール大会が開催されることとなりました。これは在学生も新入生も教員も含め、親睦を深める絶好の機会となりました。新入生の皆さんに一日も早く岐女短に慣れ、自治会活動やクラブ・サークル活動に慣れたいという願いが込められていました。5月晴れのグラウンドやアリーナで相互に交流して先輩やクラスメイトと過ごす楽しい一時の陰で、武藤先生や宮本先生の活躍が光っていました。このような学生・教員の一体的活動が、当時開催されていた中部地区公立短期大学競技大会での優秀な結果へと繋がったように思います。

70年の歴史を踏まえ、岐女短の更なる発展を祈念致します。